



目標4：質の高い教育をみんなに

第2回：モニター本“扉を開く哲学”

4 質の高い教育を
みんなに



私達は、仕事や家庭のことにといたるまで、毎日の生活の中で、必ず「どうすればいいのか」と、考える場面に直面します。そんなとき本を読んだり、友人や誰かに相談したり、ネットで調べたりそんなネットでは、膨大な量の情報が得られるため、自分で考えたと思い込んでしまいがちです。

そもそも考えるとは「知識や経験に基づいて、筋道を立て頭を働かす」ことで、知識や経験に基づくということは若い人や経験の浅い人などは、難しいと思います。ですがインターネットを使えば、他の人の意見や考えなどを

「知る」ことはできます。ですが、「自分もそう思う」と意見や考えをあたかも自分で考えた気になっているのではないのでしょうか。考えた気を出した答えは、誰か似ていたり、他の人からの一言で、自信がなくなったりしてしまいがちです。でも、自分で考えて出した答えなら「筋道を立てて」いるので、ぶれずに進んでいけると思います。多様な情報をネットを使うことで得る、それに自分の価値観を照らし合わせることで判断する。この方法ならば、インターネットの力を大いに活かしながらも、最終的には自分で「考える」ことができるのではないのでしょうか。インターネットが普及して誰もが簡単に情報を得られるようになりました。そのことは悪いのではなく、【情報を得るだけに留まっていたはいけない】のだと私は考えています。

思う	考える
情緒的・感情的	論理的・理性的
一時的	継続的
自分の意志でコントロールしにくい	自分の意志でコントロールできる

古典・哲学研究者が、古典とは何か、人生の悩みや問への回答、おススメの古典等が書かれた本です。哲学って、難解だし高校生には無縁の学問だと思っていましたが、一問一答形式で、興味のある章から読むことができ、気づけば読破していました。

人間誰しも悩みがあります。その解決のヒントをくれるのが哲学なのだと。『**人生の鍵は古典の中にある**』これ名言だと思います。自分の頭で考えて答えをだす、これは人生で重要なことだと考えています。



「考える」を深く。

現代はネット社会、瞬時に情報を検索ことが出来き、自分で調べる事がおろそかになっています。情報を手にした事だけに満足し、じっくりと考えるという作業が無くなっていると思いました。私自身も調べた事で満足してしまい、情報の真偽を自分の頭で考えるという過程が薄く減っていると感じています。

今後は、ネットの知識を得る事、それだけで満足するのではなく、一歩進んで自分の思考を深める習慣を身につけていきたいと思っています。

文責：1-3 N. Y